

サンドトレイと箱庭療法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): sandtray, sandplay therapy 作成者: 田畑, 光司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/388">https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/388</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# サンドトレイと箱庭療法

## Sandtray and Sandplay Therapy

田 畑 光 司

TABATA, Koji

In Japan, sandplay therapy has been widely used as an expressive and projective mode of nonverbal psychotherapy. It is a Jungian approach stemming from Kallf's work. However, in addition to the well publicized sandplay methods, there is sandtray, which is based on play therapy. The purpose of this paper is to explain about sandtray, since currently there are limited published reports about this method. Research based on internet searches and published books suggest that there are differences between the two methods. Sandtray can be used with a variety of shapes and sizes of sand trays, and with individuals, groups, couples, and families, It is regarded as more flexible than sandplay.

### はじめに

臨床心理士である筆者は「心理検査」をテーマにしてゼミを行っている。対象は、保育士養成校の3年生である。知能検査(田中ビネー式知能検査、WISC-III知能検査)、描画法検査(統合型HTP法)、投影法心理検査(ロールシャッハ法)と風景構成法、箱庭療法(サンドプレイ・セラピー)などを体験させている。授業は通年1コマであるので、この程度では現場で実際に使用できるようなレベルまで習得することは不可能である。心理検査の実際的な手法や基礎理論を学ぶことで、自己理解と子ども理解を深めることができれば、と考えている。

箱庭(サンドプレイ)とは、砂の入っている長方形の砂箱(トレイ)に人、動植物、家

屋などのさまざまなミニチュアを自由に配置して盆栽のように世界を作るものである。トレイの大きさには規格があり、世界中で同じサイズなので比較もしやすい。治療的意味合いに重点をおくときには箱庭療法(サンドプレイ・セラピー)ということもある(Turner, 2005)。

初めて箱庭を作った感想を学生に聞くと、はじめは何を作ろうか、あいまいだったが、制作中にどんどん創造意欲が向上して作りたいもののはっきりして、楽しくなった、など好意的なものが多い。また、研究室の箱庭用具(図1)を見て興味を示す学生も多い。このように、箱庭療法は心理臨床的技法の中では、いっけん魅力的で手軽に取り組めるような広がりをもっているが、実はその理論を理解することがなかなか難しい。

---

キーワード：サンドトレイ、箱庭療法  
Key words : sandtray, sandplay therapy



図1 箱庭用具の様子

1939年にイギリスの小児科医ローエンフェルトが子どものための心理療法として考案した「ワールドテスト」を、スイスの心理療法家であるカルフが、ユング心理学を取り入れて、1970年代に成人にも応用できるように発展させたものが「サンドプレイ」である。本来は「砂遊び」の意であるサンドプレイを、我が国の伝統文化である「盆栽」「盆景」「箱庭」と同様の構造を見抜いて、枠を強調する意味も含む「箱庭」という言葉をあてはめたことは、我が国にサンドプレイを紹介した河合隼雄の卓見のおかげであった（岡田、2002）。

心理学的な人間理解の方法は多数あるが、サンドプレイの背景には、ユング心理学や象徴解釈理論がある。行動療法などと比較して、ユング心理学では、どちらかといえば論理的な推論理解というよりも形而上学的な洞察センスが要求される。科学的・論理的であるよりも、直観的・了解的なスタイルを主流にしているからだ。遊園地のように無邪気そうにも見える箱庭作品だが、背景となるユング心理学の諸概念（集合的無意識とか夢分析とかシンクロニシティなどなど）の理解はかなり大変な作業になる。こういった考え方に、なじめるクライアントもあればなじめないセラ

ピストもいる。なじめないと感じて、繰り返しているうちに、なじみを感じてくることもあるのが、こころの面白さと不思議さなのだろう。だが、こころはひとつの理論では全てを説明できず、相互に補完することも時には必要になってくるので、偏ることなく、いろいろな人間理解の立場を学ぶことはかせない。箱庭療法も、ユング心理学だけでなく、さまざまな立場から理解することができないだろうか。

## 目的

箱庭療法には、ユング流にこだわらない、「サンドトレイ」という立場がある（DeDomenico, 1995 ; Armstrong, 2008 ; Homeyer,ら2011など）。この言葉の邦訳はまだ見当たらない。サンドプレイという言葉には、セラピストの目の前でクライアントが砂を使ってプレイをすること、そしてそのプレイをどう考えてゆくののか、という意味がある。サンドトレイという言葉では、プレイでなく、プレイの舞台であるトレイに意味がある。目の前のクライアントのプレイを理解することだけでなく、クライアントがプレイを表現するために、セラピストがどう具体的に働きかけるのか、などに重さがあるとえいるのだろう。

サンドトレイでは、サンドプレイと異なりトレイの規格にはこだわらない。いろいろな形のものをクライアントに応じて用いたり、ポータブルなトレイを持参して病棟や家庭に出向いて箱庭を作ることとする。トレイに入れる砂の素材も違うことがある。対象者も個人にとどまらず、家族や夫婦といった集団で箱庭を作ることとする。行動療法などいろいろな心理臨床のセラピー技法を取り込むこともある。

サンドトレイはサンドプレイよりやや遅れて始まったが、今では米国にはサンドトレイのネットワークもある。ユング的解釈にこだわらないというのであれば、どのような解釈をするのだろうか。そもそもどうして生まれたものなのだろうか。サンドプレイと違いがあるとすれば、どこに、どんなふうにあるのだろうか。箱庭療法をより深く理解するためにも、本研究はサンドトレイを紹介しつつ、サンドプレイと比較・検討することを目的とした。

## 方法

サンドプレイとサンドトレイに関する内外の成書・論文およびインターネットなどからその理論や方法などを比較・検討する。

## 結果と考察

### 1 サンドプレイとサンドトレイの普及度

日本語で出版されている箱庭療法の書籍(木村、1985；三木、1991；岡田ら2007など)や文献(中川、2002；小野、2002)などには、「サンドプレイ」は紹介されていない。そこで、インターネットによる検索を行った。

論文データベースである、国立情報学研究所データベース(CINII)で検索すると、「箱庭療法」では299件が、「サンドプレイ」では13件がヒットした。「サンドトレイ」では0件であった。書籍について、amazonで検索すると、「サンドプレイ」でも「サンドトレイ」でも0件であった。「箱庭療法」では235件がヒットした。Barns&Nobleではbooksのカテゴリーで「sandplay」が47件、「sandtray」は7件、それぞれヒットした。動画サイトのYou tubeでは、「箱庭療法」で検索すると38件が、「サンドトレイ」では0件であった。

「Sandplay therapy」では263件、「Sandtray therapy」では293件、それぞれヒットした(検索はいずれも2012年7月から9月の間に行った)。これらの結果から、我が国では「サンドプレイ」よりも「箱庭療法」という言葉で使用されることが殆どであること、「サンドトレイ」は箱庭療法と関連して使用されることはないことが分かった。また、Barns&NobleとYouTubeの結果は、米国ではサンドトレイという言葉がタイトルとして使用されている書籍があること、動画サイトのアップ数が多かった。このことは、サンドトレイの活動家が、積極的に動画サイトを活用していることが考えられる。米国と比較して、我が国ではサンドトレイという言葉がまだ知られていない、と言えるのだろう。

### 2 サンドトレイの定義

サンドプレイという言葉は今では世界中に広まっている(山中ら、2000)が、ローエンフェルトに学んだ様々な臨床家が、自分たちの臨床的ニーズに対してそれぞれ適用を考え、新しいやり方を試みるのは自然なことであろう。図2はそのチャートを整理したものである(DeDomenico, 1995より一部改変)。ユング流の象徴的アプローチが広く実践される一方で、無意識という精神状態における深さに注目するよりも、箱庭を制作するクライアントの経験が、無意識に直接作用し、クライアントの癒しや成長を促進することに注目した立場があった。いろいろな大きさや形の砂箱を使ったサンドプレイを観察した結果、クライアントにはいろいろな内面の変化が生じ、本人にとっての意味が生まれる(meaning making)という考え方である(Boikら、2000)。そうして、サンドトレイ-ワールドブ

レイが生まれた (DeDomenico, 1995)。1987年に、米国ではサンドトレイというタイトルをつけた書籍が出版され、1997年からは米国サンドトレイ協会 (www.sandtray.org) からニュースレター、ジャーナルが発行されている。さらには、人間的アプローチ (humanistic approach) という立場のサンドプレイ (Armstrong, 2008) や、アドラー学派のいうライフスタイルから理解しようとするもの (Sweendey, ら2003) などもある。

サンドトレイは、次のように定義されている。

サンドトレイセラピーとは、非言語的媒介によるコミュニケーションとして、トレイにいろいろなミニチュアを置くやり方で個人内あるいは個人間の問題を扱おうとする、表現法あるいは投影法に属する非言語的心理療法であり、熟達した治療者の下で、クライアントにより導かれるものである。スイスのユング派分析家ドラ・カルフによるサンドプレイとは、ユング流のアプローチを中心にしてトレイやミニチュアを治療的に使用するものであり、治療的サンドトレイによるアプローチのことである (Homeyer, ら2011)。

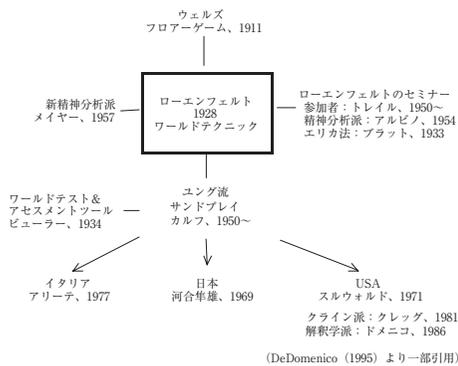


図2 箱庭の流れ

### 3 日本における箱庭療法

我が国では、スイスのユング研究所に留学しユング派分析家の資格をとり帰国した河合隼雄が、1965年に箱庭療法とタイトルをつけた論文を京都市カウンセリングセンター紀要に発表したことが最初である。その後、河合は高橋史郎、三木アヤらと経験を重ね、1969年に「箱庭療法入門」、1972年に「カルフ箱庭療法、」1982年には「箱庭療法研究1」を出版し箱庭療法普及の基礎を作った。1987年には日本箱庭療法学会が設立されて現在に至っている。(1992年にカリフォルニアで開催された「箱庭と魂と象徴」国際会議での河合隼雄の、ジョークを交えた名スピーチに最も感銘をうけたことをHong (2007) は自著の中で紹介している。)

このように我が国ではユング派の学者が中心になって箱庭を紹介したためか、その他の論文 (山中、2002；樋口、2002など) でも、サンドトレイについての記述は見当たらない。

### 4 二つの箱庭療法の比較

基本的に大きな差はないといえるだろう。しいていえばサンドプレイは方法論が統一されているが、サンドトレイでは、自由度が大きい傾向がある。たとえば、トレイのサイズにこだわらない、対象者が集団でも実施する、他の心理療法も併用することなどである。以下、具体的にいくつかの点について比較してゆく。

#### 1) 砂について

箱庭において、砂は重要な意味を持つ (小野、2002)。砂は、掘ることや積み上げるなどによって立体的に形を変えることができ、イメージを具体化しやすい。さらに、砂の感

触がクライアントの原始的心性を喚起するといわれている。砂には、灰色や白色に限らず、暖色系や寒色系などのいろいろな砂色があるので、トレイが複数個用意できる場合には、色の違った砂を用意しておく、クライアントは内面を表現しやすくなるだろう。水を使って砂を湿らせることも箱庭ではよくあるが、程度を考えないと制作の後、掃除などが大変なことがある。乾湿と色砂など、トレイを目的別に複数個備えるためには、部屋の広さ（棚の面積）や掃除などの管理上の問題もでてくる（筆者はクライアントに色砂を混ぜられてしまったり、湿った砂を部屋じゅうにばらまかれた経験がある。）ので、それぞれの事情に合わせて設置すればよいだろう。

サンドトレイでは砂の代わりに、シリアル、米、大豆なども使用することがある。それぞれ独自の感触と色あいがあるので、クライアントの選択肢が広がる。発達に問題がある子ども、障害のある子ども、幼児の場合には砂よりもふさわしいこともあるし、トレイからあふれても掃除が楽という利点もある。

## 2) トレイについて

使用する箱は、長方形であり、そのサイズは統一されている。内法57×72×7cm。この大きさは、箱が制作者の腰の高さのあたりに置かれたときに、その人の視野にすっぽり入る程度という点からローエンフェルトが考えたとされている。内側は“水”の感じを出すために青色に塗ってある。我が国ではこのサイズが標準になっている（例えば、西村（1973）、木村（1985）など）。

トレイの形については、サンドプレイの立場からも検討されたことがある。山中ら（2000）は、「枠強調箱」として内法はそのま

までであるが、高さを17cmにしたものを武野俊弥が、安溪真一が直径72cmの「円形箱」を（いずれもユング派精神科医）提案したことを紹介している。枠強調箱は、クライアントの守りの薄さを枠を強調することで補うことをねらいとしており、通常の箱と一緒に2つおいておくこと統合失調症者はこれを必ず選ぶという。また、円形箱は母子双方に同時に共同制作ができることをねらいにしたが、再試するものがなく廃れてしまったという。山中は、これらを画期的な発展的活用であると好意的な評価をしている。だが、その後トレイへの工夫をした報告は、山上ら（2010）の「ざる箱庭遊び」まで見当たらない。

サンドトレイでも、標準的な規格のトレイがいちばん優れている（Homeyer, ら2011）として、形とサイズはサンドプレイで使用するものと同じものである。しかし、形は正方形や長方形、円形、八角形などを用いても構わない。クライアントの状態に応じて柔軟に選択して対応してよい。ただし、箱庭療法の基本である、「自由で保護された空間」であるためにはサイズが小さすぎると表現できないし、大きすぎれば圧倒されてしまうということから、サイズは重要であることが指摘されている（DeDomenico, 1995）。そして、クライアントとセラピストが一緒に見ることのできる大きさがよいこと、形については、円形では空間を分割しないですむことや、曼荼羅様に世界を表現することができるなどの特徴があるといわれている。またポータブルサイズのトレイを使用することもある。サンドプレイは一定の部屋で箱庭の制作を行うことを基本とするが、サンドトレイでは、ポータブルなスタイルでも可とされ、クライアントの部屋や学校の教室などでの箱庭制作をするこ

ともある。

### 3) ミニチュア

表1は、研究者ごとにミニチュア分類一覧を示したものである。ミニチュアについては、特に指定はない。できるだけ多くの種類を、

大きさにこだわらず用意する。いろいろな玩具を用意することで、多彩な表現を引き出すとするからである（河合、1969）。しかし、たくさんあればいいというわけでもない。あまりに多すぎれば、クライアントは圧倒されて表現できないこともある。ミニチュアの質

表1 箱庭用具

名称	1：サンドプレイ	2：サンドプレイ	3：サンドプレイ	4：サンドプレイ	5：サンドトレイ	6：サンドトレイ
研究者	河合隼雄 (1969)	秋山達子 (1970)	Weinrib (2004)	Boik (2000)	Homeyer (2011)	De Domenico (1995)
トレイ	57×72×7 cm	57×72×7 cm	28.5×19.5×3inches	30×20×3inches	30×20×3inches 円、正方形、八角形も	19.5×21.5×4 inches 目的により様々
	人 (兵隊、インディアン、警官、楽隊、男女、老若、乗り物に乗る人)	人間 (男女子ども、楽隊、インディアン、カウボーイ、いろいろな職業)	人間 いろいろな人種、年齢、職業	人間 普通の人、活動中、職業人、歴史、ファンタジー、神話、魔術、戦闘、奴隷、死体、宗教、人種、身体の一部	人間 家族、花嫁、花婿、職業、趣味、スポーツ、老若男女、歴史上の人物	人間 大小各種、身体の一部も。歴史上の人物、アニメやヒーローも、貴族、民族
	動物 (野獣、家畜、鳥、貝、魚、へび、かえる、)	動物 野生・家畜、両生動物、恐竜	動物 野生・家畜、鳥、魚、貝	動物 野生 (陸上、海中、空)、家畜、絶滅種、神話上、ファンタジー、骨、貝、羽、動物の棲家	動物 恐竜 (古代)、野生 (動物園)、家畜 (牧場)、鳥、昆虫、海の生物	動物 野生・家畜、昆虫、果など棲家、貝、改装、海の生物、多頭の怪物骨や歯、化石、ファンタジーな生き物
分類	木	植物 大木、若木、枯木、果実のある木	植物	植物 自然・栽培、若芽から老木まで	植物 樹木、花、サボテン、垣根	植物 樹木、老木、若木、花、果実、果物、葉っぱ、ドライフラワー
	花	花 草花、芝生	樹木、花			鉱物 岩石、ガラス片、宝石
	宗教 仏像、キリスト、マリア像、天使、十字架		宗教 教会、寺院		宗教 東西の宗教、神秘的なもの	宗教 キリストとヨゼフなど組み合わせ。宗教のシンボルも。
	乗り物 自動車、消防、救急車、汽車、飛行機、戦車、軍艦、船	乗り物 自転車、オートバイ、船、飛行機、汽車	乗り物 車、電車、船舶、飛行機	乗り物 陸上、海上、空の乗り物、救急車、軍用車	乗り物 自動車、トラック、飛ぶもの、船舶	乗り物 陸上、海上、空中のもの、児童用のもの
	建築 ガソリンスタンド、和風洋風の家、神社、仏閣、教会、城	建物	建物	建築	建物 家、ビル、宗教、遺跡、	建物 家具 (古いものも)、家、公園や校庭にあるもの
	橋	橋	橋	橋	橋	橋
	柵 堀、石垣	柵		柵	柵、囲い、フェン標識、バリケード、門、交通標識	標識 信号、踏切、鉄道・道路標識
	石 タイル、ピース	タイル		鉱物 岩石、宝石、ピース	自然 海藻、貝、岩のもの、化石、宝石	自然 いろいろな種類のもの
	怪獣 ウルトラマン	怪獣 ウルトラマン、カネゴン、ゴジラ		その他 星や天体の象徴物、きらきらしたもの、医療用品、アロマ製品、携帯やパソコン、収納箱、食物	ファンタジー 魔法、妖精、モンスター、民話、アニメ、映画のキャラクター	マジック 魔女、小道具、呪いの用品
		家具		素材 色画用紙、粘土、布切れ、糊、建築材料	生活 家具、食器、用品 食べ物、	素材 紐、粘土、わら、布、木片、反射するもの
		積木	工芸品		景観 地形、洞窟、記念碑、井戸、	景観 山、洞窟、トンネル、門、天体、太陽
		金属片			その他 医療用品、アルコール、	その他 電話、アンテナ、ラジオ

は、カテゴリーと同様に象徴的な意味を引き出すためには重要である (Armstrong, 2008)。盆景材料は、日本人にはなじみやすいが、米国で使用されている人形には人種や民族ごとに用意されているなど、国や文化などによる相違がある。最近では異文化交流も活発化しているので、さまざまなミニチュアをそろえる必要も出てくるかもしれない。セラピストの個人的な感覚によって収集されることが多いので、カテゴリーや質が偏向することのないように心がける必要がある。

表1から、サンドトレイのミニチュアを比較すると、スピリチュアルなものやファンタジーなものを象徴するものと医療用品などが含まれている。多彩な表現を引き出そうとする立場の反映なのだろうが、背景には我が国と米国との箱庭療法で扱う問題の違いがあることも考えられる。

#### 4) 対象者

子どもから老人まで、幅広い年齢層に適應できる。知的障害や精神障害のある場合、重篤なものは適應外とされる。サンドトレイでは個人も含めて、夫婦や家族といった集団で制作することも視野にいれる。

#### 5) 部屋について (図1)

専用の部屋があれば十分な準備ができるが、必ずしも用意する必要はない。快適な雰囲気であればかまわない。プレイルームの片隅にトレイとミニチュアの置かれた棚があることも多い。学校で使用することもある (Schaefer, 2001)。ミニチュアを置く棚は、刺激的すぎないように配慮する。それぞれをカテゴリー別に配置しておくクライアントにとっては制作しやすくなる。

サンドトレイでは、トレイにこだわりがないため、大きな机にミニチュアを配置して(このとき、象徴性がポジティブかネガティブかで分けて置くことよい)、箱庭を制作することもある。クライアントの自宅や学校の教室にトレイを持ち込んで(組み立てタイプのトレイもある)、ミニチュアを収納したポータブルな道具箱を使って制作をすることもある。

#### 6) 誘い方

子どもの場合、ほとんど説明は不要である。棚にあるミニチュアが自然と視野に入るようにして、本人からの自発的な活動を待てばよい。大人も同様であるが、躊躇した場合には、「これでなんでもいいから作ってみませんか」など心的な負荷を与えぬように誘って見る。

サンドトレイでは、認知行動療法や問題解決志向などの立場からの言葉かけをすることもある。Homeyerら (2011) による例を紹介する。理感情行動療法では「あなたを怒らせたその出来事について、この箱庭で作ってみませんか」「その怒りがどんなものなのか、この箱庭に示して見ませんか」などの声掛けがある。尺度化の質問として、「ふたつの箱庭を作ってください。カウンセリングに最初に来たときの気分と、今の気分のもの、それぞれです」「落ち込んでいる気分を1から10までの間で表現したらいくつになるでしょう。今、どんな風に落ち込んでいるのか、その感じを箱庭に表現できるでしょうか」などの声掛けがある。認知療法における恣意的推論として、父親が仕事の都合で息子のサッカー試合にこれず、相互のわだかまりになっているケースがあったとする。そこでは、「二人ともがっかりしていますね。もし二人で箱庭を作ったら、どんなになるのでしょうか。このこ

とをテーマに考えて作ってみてください」など。

## 7) 質問

サンドプレイでもサンドトレイでも、箱庭が制作された後で、その作品に対してセラピストが理解を深め、クライアントにとっては新たな気づきや振り返りのために、質問をすることがある。しかし、その場の雰囲気を理解して、注意深く行う。制作中はあまり言葉を挟まず、質問も漠然としたものでよい。クライアントの創造する世界に、共感しているというサインを伝える程度で充分である。制作の後、「何を作ったのですか」、「これは何ですか」、といった程度の質問で十分に共感を深められる。作品そのものがクライアントの表現であるから、言葉は慎重に選んで使うようにする。しかし、サンドプレイでは、箱庭の物語性に注目して積極的にクライアントの語りを捕らえ、解釈を進める立場もある（Turner, ら2011）。

## 8) 解釈

サンドプレイでもサンドトレイでも解釈をマニュアル化することはかなり難しい。マニュアル化することで、イメージとか感性といった非言語的な重要なとらえ方がなくなり、形式的な理解になってしまう恐れがある。空間象徴理論を機械的に解釈することには意味がないことと同じである。本来、箱庭はカウンセリングなどの経過に応じて繰り返して制作されることが多いので、1回の作品だけを理解するというよりは、繰り返される作品の変化と発展を見守る、系列的理解も重要になってくる。

解釈の基本として、統合性、空間配置、テー

マ、象徴的意味がある（木村、1985）。さらに、クライアントの発達や主訴、症状、セラピストとの関係性などさまざまな変数が加わるので、実際にはクックブックのようにはいかない。同じ絵画を見ても、感動するものと無感動なものがあるように、ミニチュアの象徴性理解も、個人差がある。セラピストの力量が試されるときである。ヘタな解釈などせずに、クライアントと作品を眺めるだけの方がかえってよいかもしれない。

## 9) 片付けについて

完成した箱庭は、次のクライアントのためにも元に戻さなければならない。目の前で片付けるか、クライアントが帰ってから片付けるか。クライアントと一緒にミニチュアの意味を振り返りつつ片付けることもあれば、セラピストが一人で、クライアントの内面を遡行しつつ片付けることもある。いずれも、治療の意味合いがあるので、それぞれの必要性に応じて対処してゆく。サンドプレイでも（Turner, 2005）、サンドトレイでも（Homeyer, ら2011）、片付けには重要な意味のあることを指摘している。

## 10) 他の心理療法との併合

サンドトレイにおいては、いろいろな心理療法を併用することがある。遊戯療法、認知行動療法、家族療法、ロールプレイ、集団療法など。箱庭それ自身に、構造化された技法を適応する多様な可能性があると考えられるからである。

## 11) 研究と評価

事実を演繹し、その中から普遍性を見出す研究方法は、心理臨床の事例ではなじまない

ことがある。だが研究成果は臨床家におおきな励ましを与える。サンドプレイもサンドトレイも沢山の成果が報告されている。事例に注目するもの (Hong, 2011 ; Weinrib, 2004) や、コーエンのd効果を適用するなど、統計的手法を利用した報告もある (Homeyer, ら2011)。サンドプレイと脳の神経活動との関連性に注目する報告もある (Turner, ら2011)。

## まとめ

箱庭療法は有効な心理治療のひとつであるとされながらも、我が国ではサンドトレイはあまり知られていなかった。サンドプレイを学んだ臨床家が、それぞれの臨床的観点からいろいろな応用を試みた。そのひとつとして、ユング派にこだわらないサンドトレイが米国で生まれた。今では、サンドプレイと同様な広がりを見せている。

我が国の場合サンドプレイは、紹介後その魅力からたちまち広がり、今日の姿になった。トレイへの工夫を考えた報告があったが、それはサンドトレイという結晶化までは至らなかった。そのことは、サンドプレイがそのまま十分な臨床的力価を持っていたからであると考えられる。

ところで、臨床場面では、事例に対してあまりに厳密に解釈理論を適応することには主眼はおかれぬ。むしろ、箱庭を制作することでクライアントの内面がはっきりしたり、カウンセラーとの関係性が良好化したりすることを評価する。セラピストの臨床観に応じて、柔軟に対応することが実際には多いだろう。こころの問題が複雑化・多様化している今日、サンドトレイのような方法があることは今後の選択肢のひとつとして活用できるのではないだろうか。例えば、クライアントの

生活現場にサンドトレイを持ち込んで、セラピストとラポートをとる契機として利用できることも考えられる。箱庭療法は、何か作ればたちどころに問題をいいあてるような魔法の療法ではない。作品を解釈するためには、深い人間洞察力が必要である。サンドプレイでも、サンドトレイでも、これらの箱庭療法がいつそう発展することを期待する。

## 引用・参考文献

- 秋山達子 (1970) . サンド・プレイ・テクニック (箱庭療法) について (1) . 幼児の教育, 69,18-25.
- Armstrong, S.A. (2008) . Sandtray Therapy: A Humanistic Approach. Ludic press.
- Boik,B.L. & Goodwin,E. A. (2000) . Sandplay Therapy: A step-by-step manual for psychotherapists of diverse orientations. W.W. Norton & Company.
- De Domenico. (1995) . Sandtray world play: A comprehensive guide to the use of the sandtray in psychotherapeutic and transformational settings. Oakland, VA: Vison Quest Images.
- 樋口和彦 (2002) . 箱庭療法の世界の現状. 精神療法, 第28巻, 183-190.
- Homeyer, L. E., & Sweeney, D. S. (2011) . Sandtray therapy: A practical manual second edition. Routledge.
- Hong,G. (2011) . Sandplay Therapy: research and practice. Routledge.
- Kalff,D.M. (1966) . Sandspiel seine therapeutische wirkung auf die psychhe. Rascher Verlag. 河合隼雄 (監訳) (1972) . カルフ箱庭療法. 誠信書房.
- 河合隼雄, 山中康裕 (1982) . 箱庭療法研究 1. 誠信書房.
- 河合隼雄 (編) (1969) 箱庭療法入門. 誠信書房.
- 木村晴子 (1985) . 箱庭療法: 基礎的研究と実践.

創元社.

- 三木アヤ、光元和憲、田中千穂子（1991）. 体験箱庭療法—箱庭療法の基礎と実際—. 山王出版.
- 中川純子（2002）. 箱庭療法の可能性. 精神療法. 第28巻、141-147.
- 西村洲衛男（1973）. 箱庭療法. 小嶋謙四郎、秋山誠一郎、空井健三.（著）小児の臨床心理検査法. 医学書院. pp258-289.
- 岡田康伸、皆藤章、田中康裕（編）（2007）. 京大心理臨床シリーズ4 箱庭療法の事例と展開. 創元社
- 岡田康伸（2002）. 現代のエスプリ別冊. 箱庭療法シリーズII 箱庭療法の本質と周辺. 至文堂.
- 小野けい子（2002）. 箱庭療法と治療力. 精神療法. 第28巻、171-175.
- Scafer, C. E., Drewes, A. A., & Carey, L. J. (2001) . School -based play therapy. John Wiley & Sons, Inc. 安東末廣（監訳）（2004）. 学校ベースのプレイセラピー. 北大路書房.
- Sweeney, D. S., Minnix, G. M. & Homeyer, L. E. (2003) . Using sandtray therapy in lifestyle analysis. Journal of individual psychology, Vol.59, No.4, 377-387.
- Turner, B.A. (2005) . The Handbook of Sandplay Therapy. Temenos Press.
- Turner, B.A., Unnsteindottir, K. (2011) . Sandplay and Storytelling: The impact of imaginative thinking on children's learning and development. Temenos press.
- Weinrib, E.K. (2004) . Images of the self : The sandplay therapy process. Temenos press.
- 山中康裕、レーヴェン＝ザイフェルト、ブラッドウェイ（2000）. 世界の箱庭療法：現在と未来. 新曜社.
- 山中康裕（2002）. 箱庭療法の現在. 精神療法. 第28巻、135-140.
- 山上克俊、岡田珠江（2010）. 「ざる箱庭遊び」による子ども理解. 三重大学教育学部附属教育実践センター紀要. 第20号、63-68.

## 謝辞

論文を執筆するにあたり、サンドトレイ派であるHomeyerとサンドプレイ派であるTurnerに意見を求めた。二人とも、それぞれのセラピーの長短を理解しており、どうすればクライアントを援助できるのか、そのために臨床家が研鑽を惜しまないこと、という助言をもらった。Homeyerからは以下のようなコメントがあった。

「日本ではカルフに指導を受けた人たちが、先駆者となり啓蒙した結果、ユング流のサンドプレイとして今日がある。自分たちはユングにこだわらず、より広い立場から砂やミニチュアを使うことを考えた。これは、フレキシブルであり臨床的に非常に力を持つものであった。どちらの方法でも、訓練を受けた力量のある臨床家が使うことでその実力を発揮するだろう。」今後の臨床活動において大事な指針をいただいたと考えている。お二人の助言に心から感謝したいと思う。